

校舎只今工事中! 12月2日(日)完成祝賀会開催

本校同窓会は、会員の皆さんの1年2000円の会費で活動を行っております。会費払い込みのための振込用紙を同封しておりますので、郵便局もしくはコンビニエンスストアでお払い込みをお願いいたします。

今年と同窓会総会は6月16日に開催します。

★同窓会総会

13時より 母校会議室にて開催します。場所は当日掲示します。

★同窓会懇親会 14時より 母校会議室にて

今年、12月に新校舎完成祝賀会の開催を予定していますので、予算の関係上、例年の様なブッフスタイルではなく、簡単なおつまみと飲み物で楽しく過ごしたいと思っております。総会終了後同じ場所で開催します。

※例年通りのブッフスタイルは12月2日の祝賀会で開催します。



新校舎落成 記念56号

《もくじ》

同窓会長ご挨拶	2
「強まるきずな」 学校長	3
「生まれ変わる石神井」 副校長	4
「新校舎建設工事について」	
経営企画室長	4
校舎完成祝賀会に向けて	5
平成18年度決算報告書・	
19年度予算案	6
定時総会のお知らせ	7
会員消息	8
同期会のお知らせ	9
「こんにちは、石神井高校生徒会です」	10
黒菱山荘利用について	10
校歌祭のご案内 ほか	12

写真は完成近い新校舎

ご挨拶

同窓会会長 林 弘 (中2回)



前会長の高橋勇さんから会長を引き継いだのが平成13年ですから、もう6年の歳月が経ちました。この間、都立高校には統合廃止の問題があり、母校の存続が懸念された時期もありましたが、幸いにも校舎の全面改築の方向になり、現在着々と工事が進められております。これにより、本年12月には、その落成を祝う会を開催するとなりました。

本会名誉会長の福本雄吉校長の提唱されている「知、徳、体のバランスのとれた良識あるリーダーの育成」を目指す教育方針が、この新しい器の中で一步も二歩も前進することを期待しております。一方、長い間懸案であった「黒菱山荘」の同窓会による一元化が実現し、

山荘の利用促進に関しては、学校側と父母と教師の会が共々校外施設としての価値を評価され、具体的な活用策を考える気運が醸成されてきました。このように新校舎と山荘というハード面での環境が整備されつつありますので、本会としても引き続き母校の発展に寄与していく所存であります。しかしながら、そのためには、本会の財政的基盤の安定が必要であることは言うまでもありません。同窓会は会員の皆さまから寄せられる会費により運営されておりますが、2万人を超える会員数でありながら年々の会費収入は4百万円を下回る状況で、その納入率は10パーセントを切っております。従って収入の殆どは「きずな」の発行・配布に充てられており、これ以外の事業を遂行することは容易ではありません。皆さまにおかれては、本会の活動意義にご理解を頂き、会費の納入および黒菱山荘基金への助成を切にお願いする次第です。

最後になりましたが、私は3期6年会長を務めて参りました。従来から若返りを願っていた立場からも、また年齢や体調のこともあり、退任の時期に来たことを痛感しております。今総会で新会長にバトンをお渡しすることになろうかと思っておりますので、この「ご挨拶」は退任の辞を含めている心積もりなのです。これまで何かと、ご指導、ご鞭撻を頂いたことを感謝申しあげるとともに、母校ならびに同窓会の今後の発展を心から願っております。

新校舎落成を祝う

同窓会副会長 城 和裕 (高12回)



今年の12月2日(日)にめでたく竣工披露の会が開かれることとなり、卒業生の皆さんもこぞって沢山お集まり戴きたいと思っております。この少子化の時代に石神井高校は誠に恵まれていると感謝しております。私は50周年祝の周年行事の時から縁あって同窓会のお手伝いをしていいますが、これを機により良い生徒達が集まり母校の伝統を盛り上げ、社会に貢献できる事を期待しております。

数年前から学校連絡協議会の委員としても参加し、卒業式や入学式にも顔を出しておりますが、古い伝統校の歴史を知る方達は我々同窓会のメンバーと旧の恩師のみとなってしまうのは仕方のない事実でしょう。

これからは都立石神井高校もより個性化が必要で礼儀や知識を持った明るく健康な生徒を大勢育て社会に送り出すのが使命であると思っております。林会長は常にご自分が卒業時に初代丸山校長から直接教えられた礼法の事が社会に出て一番役に立ったと話されます。

式典で名前を呼ばれてもハッキリと大きな声で返事もできない子供達を見るにつけその必要が大切に思われ、今後も近隣の住人の皆さんからも応援戴ける様な様も必要でしょう。でも現役生徒達は皆可愛い子ばかりですが何か足りないと思うのも事実です。幸い我々には黒菱山荘が有ります。これを利用する手があります。学校カリキュラム以外の心の教育に役立たせるにはとても良い場所だからです。皆さんも大いに利用して下さい。八方尾根には石神井ケルンがあって石神井高校は白馬山麓では超有名な高校なんですよ！

これからも同窓会を物心両面で大いにご後援下さいますと同時にご意見もお寄せ下さい。

強まる「きずな」

学校長 福本 雄吉



同窓会の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。石神井に参りまして、この4月で3年目を迎えました。今年も、宜しく願い申し上げます。

さて、昨年度を振り返りましても、林会長をはじめ役員皆様方のご理解とご支援を賜り、いちだんと学校と同窓会との結びつきが強まった年になったと思っています。

同窓会「きずな事業」

昨年度の同窓会との関係で特筆すべきことは、教育活動への直接的な支援をいただいたということです。そのひとつが生徒会へのパソコン及び印刷機の貸与を同窓会から受けたことです。これは、生活指導部のほうから、毎日活動している生徒会のパソコンと印刷機が古くなり、使用できないような状態になっていて何とかしてもらいたいという要望があったことが契機でした。要望は理解できても限られた学校予算では対処できずに、林会長にご相談申し上げたところ、役員会にかけてくださり、パソコンと印刷機の協力が実現したものです。現在、パソコン等は生徒会室に配置され、喜ばれ、おかげさまで毎日生徒が使用しています。

また、体育祭などに使われるテントも古くなり、これについても新校舎落成の機に新しいものを3つ用意したいということで、同窓会とPTAのそれぞれにお願い申し上げたところ、ご快諾をいただいたものです。たいへん有り難く、感謝する次第です。

これからは、同窓会と現役の生徒や学校とを結びつけるものとして、同窓会「きずな事業」と銘をうたせていただきました。

黒菱山荘利用拡大の足がかり

もう恒例となりましたPTAの黒菱山荘ツアーですが、昨年は7月29日、30日に行われました。そこに、初めて生徒も5名参加しました。これは参加申し込みをしていた保護者が急遽欠席になり、役員の方がお子さんに声をかけたところ、仲間とともに参加したものです。参加した生徒は、石神井ケルンを通り、八方池まで歩いたこともたいへん楽しかったという感想をもってくれましたし、こうしたツアーが生徒にもあるといいなあということでした。うれしく思いました。

また、9月21日、22日には、同窓会の協力で学校の企画室の職員と教員を連れて、黒菱山荘の見学ツアーを実現しました。白馬山麓で「スカラ」を営業なさり、山岳ガイドをなさっている同窓生の石田様にガイドをお願いしながら実施しました。これも参加した職員からは大好評で、次回をもっと多くの教員の参加

をお願いし、山荘利用の拡大を進めるとよいという進言を受けました。

山荘利用の拡大については、まだまだ足がかりができた段階ですが、学校の年間行事にも生徒の体験ツアーの企画を載せましたし、教職員のツアーを今年も企画しているところです。

ひとつのきずなを大切に

この他、同窓会関係では、10月7日の日比谷校歌祭に副校長・企画室長とともに参加しました。また、キャリア教育の一環で行われました進路講演会には、昨年に続き、同窓生を招きました。今回は、白馬山麓の「スカラ」ご主人・石田弘行氏にお願いしました。生徒が、進路を考えるひとつの指標として好評を得ました。さらには、この4月から同窓生の教員を採用することができたということです。母校を卒業したあと、教職に就いている同窓生はいませんが、石神井に勤務している教員がしばらく不在でした。2年がかりで人事部に働きかけ、ようやく実現することができてよかったと思っています。富士高校から転任して参りました泉水裕二教諭（化学）です。今後、同窓会との窓口や調整役になることを期待しています。皆様には、すでに山荘委員会のメンバーでご存知かとも思います。

そして、昨年に引き続き、卒業生全員が同窓会に加入したことです。今、同窓会が成り立たない学校もありますし、あっても新規加入者が少なくなり、存続が厳しくなっている学校もあります。その中であって、石神井では、着任後の二年間、お陰様で卒業生全員加入となっており、うれしく思っています。これは部活動のOB会とのつながり、また「きずな事業」のように、学校と同窓会とのきずなが強まったことも大きな要因と考えています。これからもひとつひとつのきずなを大切にし、皆様の母校の発展充実のために尽力して参りますので、ご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

新校舎落成について

一年遅れの工事スタートでしたが、皆様の母校は着々と新校舎建設が進み、もう立派な校舎の概観が見えるようになりました。来年の総会時には、皆様にお披露目できるものと思っています。ご期待ください。なお、この新校舎落成を機に、教育活動等支援のための寄付行為事業を要望したいと存じます。ぜひとも母校の発展充実のために多くの方からのご芳志を賜ればたいへん有り難く、幸甚に思います。よろしく願い申し上げます。

生まれ変わる石神井

— 新校舎完成を目前にして —

石神井高等学校 副校長 **長津美明**

着任3年目となりました。平成17年5月から建設が始まった新校舎は今秋10月末日に完成の予定となり石神井は工事ラッシュです。施設が新しくなると、自然に新たな気持ちが出てきます。新生「石神井高校」をどうするか。この大きな変革を機に学校改革は正念場を迎えています。石神井高校の「特色」をどう打ち出すのか。その「特色」を現在いろいろと試行しているところです。

石神井高校に着任以来、同窓会の方々には校務運営に大きなお力添えを賜り、誠にありがとうございます。同窓会長の林様、同副会長の城様にはとりわけいろいろとお世話になっています。昨年度も学校運営連絡協議会の協議委員やキャリア教育実施への講師派遣等、石神井高校の教育に深い理解を示され、ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。「同窓会の力」をさらに学校経営に活用したいと考えています。どうぞご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、昨年は7月にPTAの方々とまた9月には教職員と2度黒菱山荘にいきました。長野県の白馬

村八方尾根にある本校の黒菱山荘は、自然の中にある貴重な施設です。現在この施設の活用を学校として考えているところです。夏季休業中に利用することを計画中です。黒菱山荘の活用を通じて石神井高と白馬村との交流ができればと考えています。他校にはない石神井高校独自の「特色」として十分に価値あるものと思えます。施設の維持管理を同窓会の方々が懸命に支え、母校を愛してやまない同窓会の熱い想いがこの黒菱山荘に象徴されています。その期待に是非応えたいと思います。

毎日が実にあわただしくゆっくりと学校経営を考えているいとまもない昨今ですが、同窓会をはじめ生徒やその保護者また地域の方々の石神井高校への期待へ想像以上に大きいものがあります。副校長として大きな責任を感じています。教職員も何か新しいことに取り組まなければならないと感じているところです。課題はいろいろありますが教職員と一丸となり職務に取り組みます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新校舎の建設工事について

経営企画室長 **重田美奈子**

新校舎の工事進捗状況

当初の計画から1年遅れで始まりました新校舎の建設工事、もう1年8ヶ月経ちました。工事もだいたい進みまして、瀟洒な校舎の外観が見えるまになりました。現在、内装や付帯設備等の工事が精力的に行われています。今年の秋には完成し、検査を受けてから学校側に引き渡しとなります。その時期は、11月末ごろになるかと思えます。また、この4月からは、体育館の大改修工事も併せて行われています。この工事、新校舎の完成と同時期に終わる予定となっています。

今年の12月に引っ越しを行い、3学期から新校舎や体育館での教育活動が展開されます。いろいろとご心配いただきました冷暖房設備も、普通教室にはすべて導入されます。今回、新たに300名程収容の視聴覚ホールもできますので、立派な施設・設備をもった学校に生まれ変わります。

そして、来年の1月からは、いま使用していますプレハブ校舎の解体工事が始まり、それが終わりますと、最後の仕上げとなりますグラウンドやテニスコー

ト等の外回りの改修・整備工事が行われます。そのため、皆様の母校・石神井高校の新校舎建設工事は、平成20年度にすべてが終了する予定です。

校外施設のご紹介を！

さて、新校舎建設は、都立高校206校ある中でもまれなケースですので、たいへん有り難いものと思っておりますし、石神井高校に期待されている教育についても重く受け止めているところです。その中で、今、大きな課題としてあるのが、生徒たちの部活動場所の確保です。

現在、体育館も使えない状況ですし、来年はグラウンドが使えなくなります。今、NTTと東京女子学院のグラウンドをご好意でお借りしていますが、とても足りず、困っている状況です。近隣の小・中・高校にもお願いしていますが、なかなか難しい状況です。

つきましては、学校近辺で普段の日はもとより土曜日や日曜日に、部活動で使用できる体育館やグラウンドやプールをご紹介いただければたいへん助かります。ぜひ情報のご提供をお願いする次第です。ご連絡は、経営企画室・重田までお願い申し上げます。

校舎完成祝賀会に向けて

同窓会副会長（企画担当） 勝見鈴代（旧姓別所 高20回）

40年ぶりに新しい校舎がこの秋に完成する・・・
 そういえば私が石神井高校に入学したとき、新しい
 三階建ての鉄筋コンクリートの校舎と古い二階建て
 の校舎があった、私達の教室は、古い木造校舎にあっ
 た。真新しい校舎と渡り廊下（これも古い木造で、
 しかも屋根があるだけ）で繋がっていた。
 春一番の風が吹くと、校庭は砂嵐・・・そして教室
 も砂嵐・・・

男子生徒は、壁にパンチ・・・穴ぼこだらけ、今
 もあの時の教室の情景をおもいだすと、心があつた
 かなくなってくる。そう、私達20回生が卒業してちょ
 うど40年になるのだ。

ちょうどその年に企画担当して、校舎完成祝賀会
 に関わることになり、とても嬉しく思っている。

さて、校舎完成祝賀会の準備は、学校、父母と教
 師の会、同窓会の3者が一緒になって、地域の皆
 さんにも参加して頂いて進めることになった。校舎

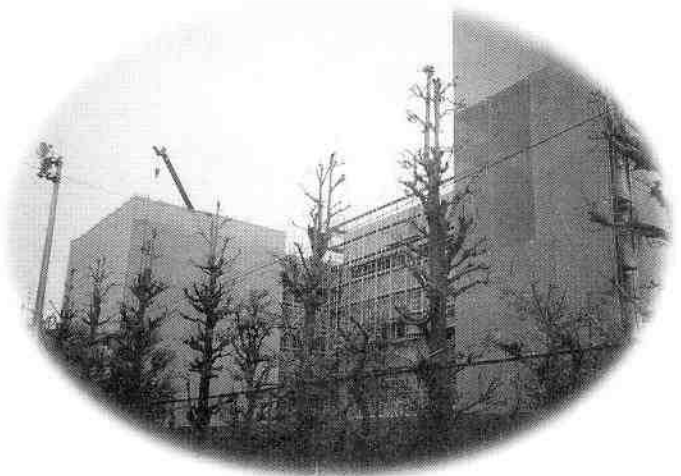
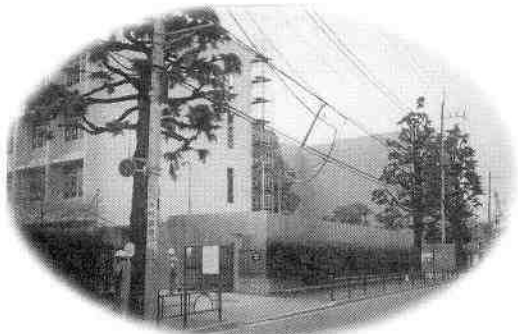
見学、同窓会のメンバーによるライブコンサート、
 地域のサークルの出演を予定している。ライブコン
 サートは、31回生藤野遵さん率いるの同級バンド
 ジャムタコ（今年のきずなで活動内容が紹介されて
 いる）による、『愛』がテーマのオリジナル曲を、また、
 20回生山形俊一さんがドラムとして参加している
 ビートルズフォーエバーによる『ビートルズと永遠
 のポップス』を予定している。

2つのバンドとも、早く出演を承諾してくれた。

司会は、西東京FMでパーソナリティーをつとめ
 ている穴倉有子さん（14回生）をお願いすること
 になっている。

そして、美味しいビュッフェスタイルの食事と飲み
 物も・・・

母校の新校舎完成祝賀会へ是非是非、お出かけく
 ださい。



東京都立石神井高校新校舎完成 お披露目及び祝賀会

と き 平成19年12月2日日曜日
 お披露目
 10時30分受付
 12時まで校舎内を自由に見学
 祝賀会
 12時30分～

場 所 体育館
 会 費 2,000円

平成18年(2006年)度 決算報告書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

収入の部	平成17年度実績	平成18年度予算	平成18年度実績	対予算実績	備考
繰越金	893,815	291,402	291,402	0	
入会金	1,174,381	1,360,000	1,359,704	▲ 296	3月卒業生入会金 272名分
年会費	3,286,955	3,700,000	3,304,600	▲ 395,400	郵便振替&コンビニ 1721件
雑収入	138,959	100,000	1,058,247	958,247	運営基金から100万円繰り入れ
合計	5,494,110	5,451,402	6,013,953	562,551	

支出の部	平成17年度実績	平成18年度予算	平成18年度実績	対予算実績	備考
総会費	558,251	600,000	489,052	▲ 110,948	円グラフ下の囲みをご覧ください。
本部費	292,354	220,000	287,921	67,921	
広報費	1,735,060	1,730,000	1,646,783	▲ 83,217	
発送費	1,687,281	1,690,000	1,695,421	5,421	
行事費	218,630	220,000	217,068	▲ 2,932	
山荘費	500,000	500,000	500,000	0	
新会員	100,000	120,000	132,090	12,090	
高校援助	111,132	100,000	533,565	433,565	
予備費	0	50,000	0	▲ 50,000	
合計	5,202,708	5,230,000	5,501,900	271,900	

繰越金額	平成17年度実績	平成18年度予算	平成18年度実績	対予算実績	備考
繰越金額	291,402	221,402	512,053	290,651	内訳 郵便局 90,413円 三井住友銀行 421,640円

平成18年度 運営基金残高 18,349,082円

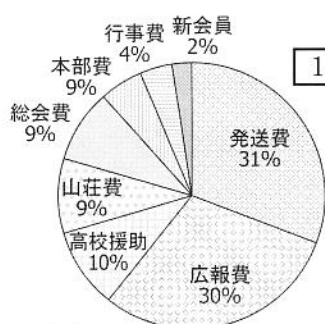
上記の通り、平成18年度会計収支を決算して報告いたします。

会計 川口 弘
 会計 森 雅夫
 会計 道家 正昭

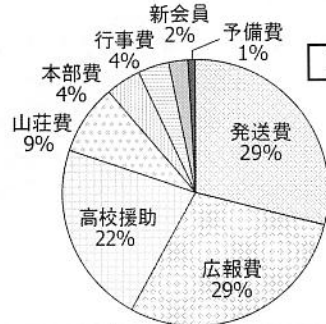
上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。

平成19年4月26日 会計監査 佐藤 健
 会計監査 鶴飼 明弘

— 18年度実績と19年度予算のグラフと用途のあらまし —



18年度実績



19年度予算

18年度実績から
 発送費はきずなの発送用
 広報費はきずなの編集、印刷、インターネット用
 高校援助は生徒会へコンピュータ・プリンタ寄贈
 学校へテント寄贈、校外の施設使用費
 山荘費は黒菱山荘用
 総会費は懇親会、総会用
 本部費は同窓会運営用
 行事費は校歌祭用
 新会員は新卒業生へお祝いの紅白饅頭

19年度予算から
 広報費はきずなの編集、印刷、インターネット用
 発送費はきずなの発送用
 高校援助は12月の新校舎落成関係経費
 山荘費は黒菱山荘用
 本部費は同窓会の運営用
 行事費は校歌祭用
 新会員は新卒業生へお祝いの紅白饅頭
 総会費は新校舎落成関係経費として
 高校援助へ移動

第四号議案

定時総会のお知らせ

平成19年(2007年)度 予算書(案)

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入の部	平成18年度実績	平成19年度予算案	平成18年度実績との差
繰越金	291,402	512,053	220,651
入会金	1,359,704	1,369,634	9,930
年会費	3,304,600	3,500,000	195,400
雑収入	1,058,247	1,200,000	141,753
合計	6,013,953	6,581,687	567,734

支出の部	平成18年度実績	平成19年度予算案	平成18年度実績との差
総会費	489,052	0	▲ 489,052
本部費	287,921	250,000	▲ 37,921
広報費	1,646,783	1,700,000	53,217
発送費	1,695,421	1,690,000	▲ 5,421
行事費	217,068	220,000	2,932
山荘費	500,000	500,000	0
新会員	132,090	136,000	3,910
高校援助	533,565	1,300,000	766,435
予備費	0	50,000	50,000
合計	5,501,900	5,846,000	344,100

繰越金額	512,053	735,687	223,634
------	---------	---------	---------

雑収入120万円は運営基金から繰り入れ
 学校援助は120万円が新校舎落成関係経費で
 10万円が校外施設使用費

平成18年(2006年)度 黒菱山荘会計報告書

収入の部	金額	備考
同窓会よりの助成金	500,000	平成18年度分
黒菱山荘利用料	337,000	宿泊延べ数 258件
雑収入	127	受取利息
合計	837,127	

支出の部	金額	備考
交通費	80,000	JR乗車券、特急券、高速道路料等
通信費	33,100	電話代、郵便料
水道・光熱費	97,808	電気、水道、プロパン代
会議費	59,363	月例会議、山寮会議、懇親会費
諸会費	46,465	山寮協議会年会費
修繕費	52,446	設備関係補修費
備品費	0	什器備品、鍋釜等
借地料	150,000	諏方振興会
雑費	170,982	保険料、ゴミ処理料、消耗品代等
合計	690,164	

次期繰越金	146,963	山荘修繕準備金へ繰り入れ
-------	---------	--------------

修繕準備金 残高 667,207円

平成18年(2006年)度 運営基金会計報告書

前期繰越金	19,100,900円
収入計	248,182円
内訳 黒菱山荘改修立替金 第4回返済金	243,602円
預金利息	4,580円
支出計	1,000,000円
当期繰越金	18,349,082円

同窓会規約第18条に基づき平成19年度定時総会を下記により開催しますので、ご参加ください。

平成19年6月1日

同窓会会長 林 弘

記

日時 平成19年6月16日土曜日 午後1:00より

場所 母校会議室(予定)

議題 第一号議案 平成18年度事業報告書

第二号議案 同上の収支決算報告及び会計監査報告

第三号議案 平成19年度事業計画案

第四号議案 同上の収支予算案

第五号議案 役員改選

第一号議案

平成18年度事業報告

平成18年4月1日～平成19年3月31日

平成18年

4月 母校入学式に会長が来賓として臨席した

4月 役員会開催し下記の内容が話し合われた

会計報告と次年度予算案

次年度事業計画案

総会の役割分担

黒菱山荘関係

5月 同窓会誌『きずな』55号を発行し、会員に送付した

6月25日(土)

平成18年度定時総会を開催。定時総会議案はすべて原案通り可決承認される。

10月7日(土)

第13回東京校歌祭(日比谷公会堂)にプラスバンド

有志を交えて参加した

平成19年

3月 母校卒業式に会長及び副会長が来賓として臨席し祝辞を

のべ、紅白饅頭を贈呈した役員会は、4月以外にも随時必要に応じて開催した

第二号議案

平成18年度収支決算報告及び会計監査報告

(平成18年4月1日～19年3月31日)

第三号議案

平成19年度自供計画案

4月 母校入学式に会長が来賓として臨席

4月 役員会開催(下記の内容を協議)

会計報告、次年度次号計画案

校舎完成祝賀会開催、きずな編集、発行

母校への協力事項、黒菱山荘

5月 同窓会会報誌『きずな』56号を発行し、会員に送付

6月16日(土)

平成19年度定時総会開催、終了後懇親会開催

10月 第15回東京校歌祭に参加

会員各位の多数参加を期待

12月2日(日)

新校舎完成祝賀会を開催

会員各位の多数参加を期待

役員会は4月以降も必要に応じて開催予定

第四号議案

平成19年度事業収支予算案

平成19年4月1日～平成19年3月31日

第五号議案

役員改選

新任 会長 城和裕(高12回)

副会長 大久保利一(高17回)

留任 副会長 高橋一夫(高20回) 行事担当

副会長 勝見鈴代(高20回) 総務、企画担当

副会長 板谷方彦(高27回) 広報担当

副会長 浦川伸一(高32回) 山荘長

会計 森雅夫(高8回)

会計 道家正昭(高21回)

会計監査 川口弘(高4回)

会計監査 鶴飼明弘(高18回)

書記 椋葉祥子(高7回)

書記 竹村洋子(高17回)

●●●●●会 員 消 息●●●●●

「ミニクラス会」

(中3回)

拝啓 ご健勝のことと
拝察申し上げます。

同窓会ではいつもお世
話になります。このたび

我々 旧石神井中学3回生の有志が集まりミニク
ラス会を開きましたのでご報告もうしあげます。
私どものクラスは定期的なクラス会は行っていま
せん。従いまして級友の消息もその高齢化と共に
失われつつあります。それではあまりにも淋しい
という訳で時々ミニクラス会を行って元気を確か
めあっている所です。

又 我々のクラスは戦争中で 工場動員にも出
動していた関係で級友の離散はお互いに全く知ら
ないところで行われていました。先日の会では実
に 62 年振りに再会した友人もいました。これか
らも此の会を続けていきたいとおもいます。ひと
つお願いがあります。

此の学年には4年の卒業を待たずに転校しその
まま石神井中に戻って来なかった生徒が多数おり
ます。これらの生徒を 准卒扱いにして同窓会名
簿に載せて頂きたいともいます。旧3回生の前後
の同窓生には同じような立場の方が相当数居るの
ではないかとおもわれます。(住所、氏名は把握
しています)

エネルギー不滅の法則

鬼澤 英雄 (高8回)

今、和歌山市に居
住している。南に隣
接する市が海南市で
ある。その下津町に、
長保寺という紀州徳
川家の菩提寺があ
る。ここの住職瑞樹
正哲(旧姓保戸塚昌彦)

君は高二十五回生で、私と出
会った際の彼の第一声は「和歌山県に石神井の同
窓生はいないと思っていました」であった。

私も東京生まれ東京育ちで、六十年余りずっと
東京で暮らして来たが、今は和歌山市の片男波海
岸に住んでいる。ここは万葉集にも詠まれて、名
高い和歌の浦の景勝地である。

彼と出会うきっかけとなったのは、私が編集発
行するPAMという同人誌の十号特集記念テーマ
「遺したいもの遺したくないもの」に沿った文章
の執筆を依頼したことである。各方面で活躍され
る、面識者九十名弱の方々をお願いしたが、最終
的に約四十篇の原稿を頂いた。私との関係も多岐
に亘るのだが、中でも数の多かったのは、石神井



同窓生である。瑞樹君は別として、後の石神井関
係者はSF作家江戸研究家の石川英輔君を初めと
して全て同期生である。卒業以来五十年以上経過
しているわけだが、今でも気易く話し合え、気持
ちよく応えて貰えるのは、考えてみれば、非常に
貴重なことと言える。

夢多き、多感な時代を共有した事実は、いつま
でも忘れ得ない宝なのであろう。敗戦直後の、あ
らゆるものゝ欠乏時代をよく生き延びて立派に成
長し得た、とすれば、それは、あの壊れたガラス
窓から吹き付ける、砂混じりの空っ風にも負けな
かった、青春のエネルギーのなせる業と言えよう。

古希を迎えて

城 洋司 (高4回)

通称、エイト会と呼ばれる昭和30年卒(12,13生)
がなんと古希の年齢になりました。無事にこの年
齢に到達できた幸運さに感謝です。10年前に新宿
の高層ビルで、還暦の祝いをやった時は驚きと照
れ臭さみたいなものがありました。今回はそれ
ほど感激もなく当たり前日々を過ごしています。
いよいよ鈍感力が浸み込んできました。

エイト会も数年置きに旅行や懇親会があり親交
を深めてますが、去年11月には、卒業50周年を祝っ
て、「麻布香港ガーデン」にて記念パーティを開催
いたしました。

参加者も50数名となり、卒業以来初めての人もい
て半世紀ぶりの再会に、喜びもひとしおでした。

ゴルフの集まりである「牛歩の会」も盛んで、
年に3回のコンペで楽しんでおります。今年3月
には23人参加で第43回戦が行われ、安村鉄雄君
が連続優勝して、一同兜を脱いだ次第でした。い
ずれも世話役名幹事のいるお陰げで、諸行事がと
ぎれる事もなく継続して行く事に感謝しています。
期の皆さん、健康の為にもぜひご参加を。



「さんかいどう」

—石木先生の訃報に接して—

佐藤 健 (高3回)

序

四百年前、徳川幕府は全国支配を確立するため、江戸を起点とする五つの主要交通路を整備した(四代将軍家綱の時期に完了)。それが、東海道、中山道(中仙道)、甲州街道、奥州街道、日光街道である。これを「五街道」という。

本文

石木誠一先生は真面目すぎる性格と、大柄な体型、無骨な動作のためか、生徒には馴染みにくい面がありました。しかし、根は心優しい先生であったのです。3年前の「きずな」にも書いたことですが、戦後間もない食糧難の時期のこと、弁当を持って来られない生徒に、そっと米二合を分けてやった話を、私は五十年後にその当人から聞きました。あの時の嬉しかった気持ちを今でも忘れないと彼は言います。これぞ真の教育と感動しました。

ところが、いたずら好きの高校生は、こういう先生にも「駄洒落」を飛ばしたものです。3年生のある日の日本史の授業のときでした。我々は目前に大学受験を控えております。日本史などの暗記科目は人物や事件の名や年代を丸暗記するに限ります。いつも、先生は授業に入る前に、前回の授業を生徒がどれほど覚えているか試そうとして一人ずつ指名し質問しました。

その日、先生は「江戸時代の五街道の名を言え」という質問をA君に当てました。「東海道、中山道、甲州街道・・・えーと・・・」とA君ここで詰まってしまいます。「どうした、もう忘れたか」と先生。緊張が走る瞬間でした。その時、どこからともなく「さんかいどう」という声があり、どっと教室中に笑いの渦が巻き起こりました。

生徒がなぜ笑ったのでしょうか。その頃、先生は日本史の受験参考書を執筆されていて、その出版社が山海堂という名前だったのです。「お前あの本読んだか」「俺は昨日買った」などと盛んに言い合っていたから「山海堂(さんかいどう)」の名は生徒の間でもちきりでした。それで、この絶妙な駄洒落に皆が笑ったのです。しかし、先生はそれに気がつきません。キョトンとした顔で皆を眺めまわしておられました。少したって、ようやく気がついたのでしょうか、ちょっと恥ずかしそうな顔をされて、何かつぶやきながら、その日の授業に入られました。

「五街道」と「山海堂」、その語呂のぴったりなこと、タイミングの良さ。これほど見事な駄洒落はないと思いました。それでも、今になってみると、ああいう心優しい先生をからかってしまったことを少々申し訳なく思ってしまうのです。先生に関する思い出のシーンはいくつもありますが、毎年頂戴していました先生自作の風景写真の年賀状が、今年は来なかったのが気にしておりましたところ、先生の訃報が伝えられたのであります。ご冥福を心からお祈りいたします。

●●●● 同 期 会 ●●●●

■高校17回(昭和40年度卒業)同期会
— みんな 還暦 集合! —

石神井を卒業して早くも42年、紅顔可憐な美少年、美少女も熟年の境に入りました。前回の「卒業40年」に次いで、今回は「還暦記念」の同期会を開催します。近づきましたら、ご案内状をお届けしますが下記日程をご予定下さい。また、身近な方にも声をかけてお出かけ下さい。

期 日 2007年11月10日(土)
午後3時から3時間程度
場 所 「あおしま」
電 話 03-3404-3461
東京都港区南青山1-2-3 青山ビルB1
会 費 8,000円
連絡先 当番幹事 峯岸 誠
電話03-3311-2492

■27回同期会開催のお知らせ

熱く燃え上がった第1回同期会から間もなく2年、我々も50歳の節目を迎えました。前回は残念ながら出席できなかった方も多かったため、今回予定を早め、第2回同期会を下記のとおり開催することと致しました。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加下さい。

なお、出欠のご連絡は、平成19年6月10日までにお願い致します。また、ご出席される方につきましては、同年6月末日までに三井住友銀行光が丘支店(普)0823343「石神井高校27期同期会会計石井洋子」口座宛ご出席の予定に応じて会費をご送金下さい。

記

会 費 8000円
日 時 平成19年8月25日(土) 16:30~18:30
受付開始 16:00
場 所 東海大学校友会館 富士の間
〒100-6033 東京都千代田区霞ヶ関3-2-5
霞が関ビル33階 TEL03-3581-6041
<http://www.tokai33.co.jp/>

2次会 旨いもんや 串特急

虎ノ門1丁目店
会 費 2500円
日 時 同日19:00から2時間程度
場 所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-23-1
虎ノ門第一法規ビル B1 TEL 03-3593-9180
<http://r.gnavi.co.jp/g048016/map1.htm>

お問い合わせ先

小澤正史 ma.ozawa@nifty.com TEL 03-3581-6041
<http://www.tokai33.co.jp/.co.jp/g048016/map1.htm>

こんにちは、石神井高校生徒会です！

母校、石神井高校現役生のご紹介として、生徒会役員の皆さんの声をお聞きしました。生徒会長は、3年の友田彩奈さん。とても元気そうなお嬢さんです。年配の同窓会生には驚きかもしれませんが、現在の都立高校の生徒会は女性がとても多いそうで、石神井高校生徒会も同様。役員の中では2年生の三田村君が黒一点(?)です。

現在母校はとてもクラブ活動が盛んな反面、生徒会はなかなか手がいないようで、本来は6月が改選期ですが、夏休みぐらいにずれ込むこともあるとか。今期の生徒会執行部は、ソフトボール部の女子の皆さんが支えているそうです。

生徒会の大きな仕事は、クラブへの加入申請の管理や体育祭の予算執行で、体育祭は約900,000円ぐらいの予算規模だそうです。あいかわらず体育祭はとても盛んですが、同じく盛んな部活とスケジュールが重なることが多く、両立に悩むケースが多いとのこと。また校舎新築工事でグラウンドが狭くなっていることや体育館の補修工事が始



※写真は、後列左より副会長の辺見紗代子(3年)さん、会長の友田彩奈(3年)さん、会計の工藤真甫(3年)さん、前列左より副会長の三田村憲和(2年)くん、清水彩華(2年)さん、児矢野梓(2年)さん

まったことにより、体育祭の規模は例年に比べてやや縮小だそうです。

現役生の母校石神井に対する感想を聞いたところ、“クラブ活動が盛んで半分が運動部。先生とも仲よし!”とのことで、恩師に対して“仲よし”というのは、大人の目から見るといささか問題があるかもしれませんが、母校の校内で感じるのは、礼儀正しく屈託のない健康な子が多いということ、これはこれで現在の石神井のとても良い面だと感じました。

(取材 板谷)

黒菱山荘の利用について

副会長、山荘長 浦川 伸一 (高32回)

このきずなでは、毎号のように黒菱山荘の特集を掲載しておりますので、山荘の存在自体はみなさんに認知いただいているかと思えます。ただ、抜群のロケーションにもかかわらず、東京からはそれなりの距離がありますし、山小屋ということもあって、利用に際しては躊躇なさる方も多数いらっしゃることでしょう。

そこで今回は、ここ数年の同窓生の典型的な山荘利用形態をご紹介します、もっと黒菱山荘を身近に感じて頂こうと思えます。

<同期会での利用>

東京地区での同期会は様々な代でよく催されているようです。石神井倶楽部の東京青山「あおしま」の小田店長からも、頻繁に石神井関連の集いがあるとお聞きしています。そういった会合でよく話が出るのが、「今度温泉でも行きたいねえ」とか「子育ても一段落したし、昔の仲間数人でもいいから泊まりがけで集いたいね」といった声。

実際この2、3年の間に、同期数名での山荘利用が何件もありました。土日の一泊旅行でも充分堪能できますし、地元の方温泉につかりながらアルプスを眺め、山荘の広いベランダで旧友と酒を酌み交わすのもいいものです。

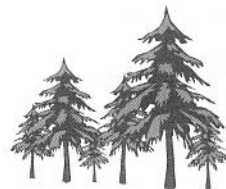
<山歩きの経由地としての利用>

ご承知の方も多いのですが、北アルプスの白馬三山へは、この黒菱山荘をベースに縦走が可能です。白馬岳をはじめ、五龍岳や鹿島槍ヶ岳、あるいはもう少し足を伸ばせば雨飾

り山など、日本百名山に選ばれている山々がいくつもあります。小屋を拠点にすばらしい山行を堪能するのも代表的な黒菱山荘の利用方法の一つです。石神井卒の皆様が一人でもいらっしゃれば、会社仲間や山仲間など、石神井関係以外の方々とのパーティーでも利用が可能です。

<スキーやスノーボードとしての利用>

黒菱山荘の利用の約4割は、12月～4月まで続くスキーシーズンになっています。日本でも知名度の高い八方尾根スキー場の上部に位置するため、冬期に小屋にたどり着くのはいささか大変ですが、着いてしまえばスキー・スノーボードのベースとしては、こんなに快適な場所はありません。4年前の大規模改修により断熱効果は格段に向上し、性能がよくなった新型ストーブの設置もあって、小屋内の温度は真冬でも快適に過ごせるようになりました。スキー人口の減少は寂し限りですが、リフト待ち時間も解消され、快適なスキー・スノーボードが堪能できます。



＜地元宿泊施設との連泊利用＞

黒菱山荘には相変わらずお風呂はありません。それ以外のものはほぼ揃っているのですが、皆さんにとってやはり入浴は旅先での重要な要素、楽しみの一つでしょう。そこでお勧めは、地元八方温泉のホテルやペンションと、黒菱山荘の連泊プラン。

幸い地元には、地元管理人として長らくお世話になっている丸山様が経営なさっているホテル対岳館があります。白馬八方尾根を代表する著名な宿泊施設です。また、石神井同窓生が経営する宿泊施設も、高校19回卒の石田弘行先輩が経営なさっているペンション、グローブインスカラなどがあり、石神井関係者にはありがたい環境です。

2泊3日の旅程が組めるのであれば、初日に松本城や安曇野、あるいは長野善光寺などを観光し、夕方八方温泉の温泉施設で入浴後、黒菱山荘に宿泊。翌日にはトレッキングなどを堪能し、地元の宿泊施設に宿泊、といったプランを組むことが出来ます。

近年、石神井高校の現役生も、スキー部の利用をはじめ、一部のクラブが課外活動の一環で山荘を利用しています。同窓会としても非常に喜ばしいことだと見守っています。同じ部活をする仲間と、通常の合宿という概念ではなく、オフを楽しむという趣旨で山荘を利用することは、多くの高校生にとって思い出深いものになると確信しています。

父母と教師の会の皆様にも、毎年7月前後に総勢30名以上のツアーでご利用いただいております。毎回好評を博しています。同窓会という組織は、形あるものとして運営することがなかなか難しいと思いますが、このような場所を媒体に石神井の「きずな」が深まることが、この黒菱山荘の存在意義そのものだと思っています。身近な同期やご友人にちょっと声をかけて、すばらしい長野の自然に触れ、親交を深めてみてはいかがでしょうか？以下に詳しいアクセスを記載しますので、ご検討なさってみてください。

最後に、黒菱山荘の管理運営をしている黒菱山荘委員会の副委員長で高校三十三回の泉水裕二さんが、今年から石

神井高校の化学の教師として赴任しました。身近なところに山荘をよく知る先生ができましたので、相談なさってみてはいかがでしょうか。

＜東京方面から白馬までのアクセス＞

☆JRで白馬まで

中央線経由 新宿から白馬まで特急で約3時間30分
新幹線 東京から長野まで約1時間20分、長野から白馬まで路線バスで約1時間 JRサイバーステーション (<http://www.cyberstation.ne.jp/>) でご確認ください。

☆車で白馬まで

関越・上信越自動車道経由で東京から長野ICまで205Km 約3時間 長野ICから白馬までR19および県道長野大町線を経て約1時間中央自動車道経由の場合、豊科ICから白馬まではR147、R148を北上。車で約1.5時間

☆高速バスで白馬まで新宿西口から白馬八方まで約4.5時間運行時刻は、アルピコグループHP

(<http://www.alpico.co.jp/access/>) で確認できます。

＜白馬から石神井高校黒菱山荘までのアクセス＞

☆自家用車またはタクシーの場合（冬期は閉鎖）

まずはあずみ野地区にある白馬東急ホテルを目指してください。ホテルが見えたら、咲花ゲレンデ方面に右折してひたすら登り、黒菱林道を7、8Km 終点近くまでずっと登ります。やがて黄色い屋根の小屋が見えてきます。

☆ゴンドラの場合

八方尾根スキー場のゴンドラ山麓駅から兎平駅まで約10分、冬期はそこから兎平リフトに乗り継ぎ山荘へ。

夏期は兎平より徒歩で黒菱平らまで約30分、またはアルペンリフトから黒菱第三リフトの下りに乗り継いで黒菱平へ

もっと知りたい方は、黒菱山荘ホームページ

<http://pws.prserve.net/jpinet.urakawa/>

もしくは、Yahoo! から、「黒菱山荘」のキーワードで一発検索できます。



雪の山荘

《《《東京校歌祭のご案内》》》

東京校歌祭は本年も10月6日(土)13:00から日比谷公会堂で開催されます。本年の参加は、20校とのことです。日本寮歌際の面々もバンカラ系アトラクションで参加予定です。

本校音楽部OB・現役で構成されるプラスバンド(イシブキ・石吹)の演奏で、石神井の「校歌」を歌います。昨年の参加者は常連さんが多かったですが、今年は、一人でも多く、50人以上で公会堂の舞台に立ちたいと思います。

♪同窓会の皆様、お誘い合わせの上、多数ご参加ください。詳細は下記の通りです。

記

- 1. 開催日時 平成19年10月6日(土)13:00
- 2. 集合時刻 同 12:30
- 3. 集合場所 日比谷公会堂 正面受付 階段上がる
- 4. 練習 集合の後、13時頃から練習、音合わせします
- 5. 参加費 無料
- 6. 曲目 ・新制高校校歌(♪緑なすここよ武蔵野♪)
・旧制中学校歌(♪粹然と東亜のみなか鎮もれる♪)
- 7. その他 日本寮歌祭の特別参加あります。
ブラスは都立小山台など数校の参加演奏終了後、自由参加で懇親会を予定
- 8. 問合せ 同窓会ホームページ「石神井サロン・掲示板」または、高20回 副会長 高橋一夫 FAX03-3991-3586にてお願いします。 以上

★母校校門前にバス停出現!

石神井高校への通学は、最寄の武蔵関駅のほか、西武バスの「吉祥寺-都民農園」を利用している生徒も多いはずだ。もっとも新青梅街道に「石神井高校前」というバス停があるにはあるが、本数がとても少ないのはご承知のとおり。最近、母校の校門前に新しいバス停が立った。「石神井高校東」なるバス停なのだが、これは練馬区の福祉コミュニティバスの停留所だ。西武池袋線高野台駅から順天堂練馬病院、上石神井駅を経て石神井高校東を通り、関町福祉園までの道のりを走っている。最近流行のミニバスではあるが、200円で西武池袋線から母校へ来ることができる新しいルートである。ただし、1時間に1本の運転であり、利用の場合は区役所などで配布されている時刻表を参照したほうが良い。

★同窓生の消息をお知らせ下さい。

結婚、出産、資格取得、褒章・叙勲、移転等、またご逝去、疾病入院等

★同窓生の活躍をお知らせ下さい。

社会的活動状況
著作、報道、出演、パフォーマン等
社会的に評価される地位への就任や表彰、
顕彰等地道な活動状況
同期生会、クラス会、OB会、
同窓生を中心とする趣味の会等

★平成19年度 転出教員

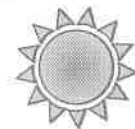
- 守屋 昭 教諭(国語)
- 加倉井祐司 教諭(数学)
- 田母神武浩 主幹(化学)
- 渡辺 通子 教諭(英語)
- 角田 啓之 教諭(保健体育)
- 柴崎 秀一 実習助手(理科)

★同窓会への連絡方法

母校では同窓会業務を取り扱うことはできません。同窓会へのご連絡は必ず下記にお願いいたします。164-0002 中野区高田 1-14-7 せいとう本部内石神井倶楽部 電話/FAX 03-3319-1122 ※なお電話に出ることができない場合もありますのでご了承下さい。

★同窓会ホームページ

<http://www.shakujii-club.gr.jp/>



編集後記

- 現在校舎は工事中です
- 今回、時間が切迫したため13回卒業の日本工房社長土橋さんにレイアウトなど高校9回欄文明社社長石川さんに印刷製本など多大のご協力を頂きました。
- この「きずな」は皆様の会費や寄付で発行・送付されています。今号は資金が不足して白黒になってしまいました。

都立石神井高校同窓会誌「きずな」第56号

発行 平成19(2007)年5月16日

発行人 同窓会長 林 弘

発行所 都立石神井高校同窓会 東京都練馬区関町北4-32-48

レイアウト・DATA作成 有限会社 日本工房

印刷 株式会社 文明社